

令和8年度 学校経営計画

広島市立舟入高等学校

学校教育目標

校訓「おのれに徹して人のために生きよう」を教育活動の指針として、生徒の

- ① 多様性を認め他者を尊重する豊かな人間性
- ② 主体的・対話的で深い学びを通じた高い知性と教養
- ③ 課題を発見し解決に取り組み新たな価値を育む創造性を育成する。

目指す学校像(ビジョン)

舟入高校は、基本的な生活習慣と社会性の涵養を基盤に、生徒が安心して『自分らしさ』を知的に発揮しながら学びを深め、自立した人間として社会的『使命』を意識して舟出していける場であり続ける。

- 1 他者を尊重して協働できる豊かな人間性を有する生徒が育つ学校
- 2 主体的に学び、問い続け、高い批判的思考力・判断力を発揮する生徒が育つ学校
- 3 国内外とのコミュニケーションを通して、平和で持続可能な社会の形成に創造的に係わる生徒が育つ学校
- 4 生徒の高い志が育ち、希望進路が実現する学校
- 5 安全で持続可能な教育活動を全校的に進めている学校
- 6 情報を発信し、地域や保護者と連携する開かれた学校

学校経営方針

生徒がもっと受けたくなる授業を展開しよう！

柱立て	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力指標	評価基準	成果指標	評価基準	担当分掌等
自律した多様性がチームを強くする	他者を尊重して協働できる豊かな人間性を有する生徒を育成するチームとなる	特別活動や部活動を通して豊かな人間性を持ち、他者と協働し主体的に行動できる生徒を育成する。	生徒会総務役員が中心となり、生徒会活動の主体的運営を目指し、各委員会や部活動との連携を密に図り活性化。生徒が充実感を持てる学校行事の計画・実施と学校生活のルール整備を目指す。	生徒が主体的に開催した委員会、情報を発信した取り組み・地域と連携した取り組みの回数	4 45回以上 3 30回以上 2 20回以上 1 15回以上	生徒が主体となって行っている生徒会活動や地域との連携に対する生徒の満足度	4 90%以上 3 80%以上 2 70%以上 1 60%以上	生徒部
		教職員の指導のもと、生徒の校内美化に対する意識を高め、積極的に清掃活動を行えるようにする。	教職員は清掃活動の監督をするだけでなく、生徒とともに活動することで、他者を尊重し、乗り越える気概を持つよう生徒の意識を変える援助者となり適切な助言や評価をする。	教員が生徒とともに清掃に取り組み、生徒の主体性をほぼ毎日行った日数	4 150日以上 3 125日以上 2 100日以上 1 100日未満	学校評価アンケートにおいて、生徒が主体的に清掃活動を行い、清掃を行き届かせていると肯定的に回答した割合	4 90%以上 3 80%以上 2 70%以上 1 70%未満	保健相談部
生きる力・専門性の礎を築き追求させる	教職員個々の専門的視点の涵養に基づいて、主体的に学び、問いを見出し、高い批判的思考力・判断力を持つ生徒を育成する研究体制を構築する	「令和の日本型学校教育」が目指す姿を共有し、教職員個々の専門性や対面指導の強みを基盤としながら、ICT等のツールを支援的に活用することで、生徒が主体的に学びに参加し、「もっと受けたくなる」と感じる活気ある授業実践を確立する。	教員が互いの実践事例を共有し、組織として授業の質を高めることができるよう、教員一人ひとりが、生徒との関わりや「問い」のある学びを重視し、新しい工夫を試みる。	今年度の学校経営方針に基づいて、従来の指導法に加えて、ICT活用や対話型活動などの新しい工夫を授業で試みた教職員の割合	4 90%以上 3 80%以上 2 70%以上 1 70%未満	授業評価アンケートにおいて、『先生が自分の理解度を気にかけてくれている』『授業を通じて新しい発見があり、もっと学びたい』と肯定的に回答した生徒の割合	4 90%以上 3 80%以上 2 70%以上 1 70%未満	教務部
		生徒の主体性、自分らしさや生きる力を反映した思考力・判断力・表現力を高めるような総合的な探究の時間(ABLE Time)の指導に取り組む。	ABLE Timeの時間における講演会等の計画的な実施を通して、生徒の主体性、思考力・判断力・表現力を高める方途を研究する。	ABLE Timeにおける探究講演会等を通じた自己の探究テーマや問いの深化に繋がる振り返りシートの提出率・回収率	4 100% 3 90%以上 2 80%以上 1 80%未満	ABLE Timeの取り組みを通して主体性や思考力・判断力・表現力を高めることができた自己評価した生徒の割合	4 90%以上 3 80%以上 2 70%以上 1 70%未満	DID (Department of Innovation Design) イノベーションデザイン部
懸念される生徒と「世界」の	国内外とのコミュニケーションを通して、平和で持続可能な社会の形成に創造的に関わる生徒の育成を支援する環境を構築する。	国内外とコミュニケーションを取る機会を増やし、平和で持続可能な社会の形成について考え、意見を深める機会を持たせる。	普段の授業や国際交流合宿、海外語学研修、海外文化研修、海外修学旅行やオンラインでの国際交流、講演会等を通して、生徒が国内外の社会課題についての理解を深め、主体的に意見を発信する機会を設ける。	生徒と「世界」の架け橋となる国際理解教育にかかわるイベントや研修の案内及び実施し、発信する機会を設けた回数	4 45回以上 3 30回以上 2 20回以上 1 20回未満	学校評価アンケートの「舟入高校は、国際理解教育を十分行っている」という項目で、そう思う・どちらかというと思う、と答えた生徒の割合	4 95%以上 3 85%以上 2 75%以上 1 65%以上	国際部
先導を見通させ、よく	生徒にとって先が見えない不安を解消し、生徒の高い志を育成し、希望進路の実現に資する経験知の共有を組織化する。	生徒一人ひとりが進路に対する目標を明確化できるように指導する。また、その実現に必要な学習意欲と高い学力を身につけるための目線を整備する。	生徒、保護者の進路意識向上を目指して、各学年ともに進路だよりを発行していく。小論文指導、面接指導を積極的に受講させて、その中で個々の生徒の学力向上に努めるとともに、自己実現につながる指導に取り組む。	難関大学志望者集会、医歯薬志望者集会、進路講演会など先を見通させる取組とその振り返りを提出させた回数	4 10回以上 3 8回以上 2 6回以上 1 6回未満	難関大学または難関学部学科志望者の全校生徒の中での割合	4 50%以上 3 40%以上 2 30%以上 1 30%未満	進路指導部
丁寧な起生きたい学校風土環境を整備して、不	教職員一人ひとりが、安全で持続可能な教育活動を進めたいける職場環境を全校的に構築する。	事件・事故の要因となる学校環境、生徒の心身の状態、学校生活全般における言動・行動の危険を早期に発見し、生徒部と連携を図り、それらの危険を速やかに除去、回避し、事件・事故、災害が発生した場合には、適切な対応、応急手当や安全措置ができるよう、検証と改善の体制を確立して、生徒の安心・安全の確保を図る。	日常、定期あるいは臨時的生徒への健康観察と安全教育、学校環境の安全点検を学校体制として行う。また、学校生活アンケート等を活用し、生徒の様々な状況を的確に把握し、いじめの早期発見、早期解決・解消に取り組む。	学校生活アンケート等に基づいた生徒面談を3回以上行った担任の割合	4 90%以上 3 70%以上 2 50%以上 1 50%未満	いじめの認知件数のうち重大事態への進展を防止できた割合	4 100% 3 80%以上 2 60%以上 1 60%未満	保健相談部
		業務の効率化を図り、1月当たりの超過勤務時間が80時間を超えないようにする。	長時間勤務の解消などの目標値を各教職員が設定し、定時退校・年休の積極的な取得を推進する。	教職員の定時退校日の平均実施率	4 90%以上 3 70%以上 2 50%以上 1 50%未満	全教職員の年間月平均の勤務時間外の在籍時間	4 40時間以下 3 45時間以下 2 50時間以下 1 50時間超え	教職員全体
地域で社会とつながるコミュニケーションを	舟入高校らしさを発揮する情報を発信・共有し、地域や保護者とともにある学校をつくる。	中学校訪問やオープンスクール等の実施と充実により、本校独自の魅力を伝えるとともに、各中学校との連携を強める。	学校案内冊子やポスター等の内容を充実させ、通学域の中学校に送付するとともに、これらの中学校を対象として学校訪問等の連携を行う。	学校案内や説明会・出前授業等、中学校への訪問や連携をした回数	4 40回以上 3 30回以上 2 20回以上 1 20回未満	オープンスクールの参加者のうち本校への関心が深まったと答えた人数	4 500人以上 3 400人以上 2 300人以上 1 300人未満	企画情報部
		学校ホームページを充実させることにより、本校の教育内容をより一層理解していただくように努める。	学校ホームページの更新に努めるとともに、舟入高校らしさを発揮する学校行事や部活動についての内容を充実させる。	学校ホームページへの記事のタイムリーな情報掲載等の更新回数	4 150回以上 3 130回以上 2 110回以上 1 110回未満	ホームページの月平均の閲覧回数	4 1000回以上 3 500回以上 2 200回以上 1 200回未満	